

令和 7 年度
一般選抜（前期日程）

共生社会創成学部 小論文
産業技術学部 総合問題

解 答 例

【出題意図】

問題 1（共通）

高校卒業程度までの学力を基盤とした、「論理的思考力」「判断力」「表現力」を、多角的に評価することを目的としている。

日本語の基礎的な能力（読解力，表現力・表記力）、資料等の読解力及び論理的思考力を重視している。

問題 2（産業情報学科）

高校で学ぶ基礎的な知識を身につけていることを前提に、数学・理科・工学といった分野において求められる「論理的思考力」「判断力」「課題解決力」を、多角的に評価することを目的としている。

知識の暗記や再現にとどまらず、与えられた情報を的確に読み取り、分析し、自らの考えを論理的に構築して明確に表現する力を重視している。

問題 3（総合デザイン学科）

高校卒業程度までの学力を基盤とした、デザイン系の「論理的思考力」「判断力」「表現力」を、多角的に評価することを目的としている。

説明文章をそのまま記載するのではなく、与えられた情報を的確に読み取り、判断し、論理的に情報を整理して明確に表現する力を重視している。

問題1 (共生社会創成学部(小論文)・産業技術学部(総合問題) 共通)

※問題1の解答用紙のみ、試験開始から60分経過した時点で回収します。

(1)

(ア)(ウ)

(2)

調	査	結	果	を	み	る	と	、	手	助	け	を	し	た	こ	と	が	な	い	人	の	理	由	
で	最	も	多	い	の	が	「	ど	う	手	助	け	し	た	ら	よ	い	か	分	か	ら	な	か	っ
た	」	で	あ	る	。	ま	た	、	手	助	け	を	し	た	人	の	理	由	を	見	る	と	「	身
近	に	障	害	の	あ	る	人	が	い	て	大	変	さ	を	知	っ	て	い	る	」	や	「	手	助
け	を	し	た	人	が	家	族	、	知	人	だ	っ	た	」	と	い	う	回	答	が	合	計	し	て
3	割	程	度	あ	る	。	こ	の	こ	と	か	ら	、	障	害	の	あ	る	人	が	身	近	に	い
る	場	合	、	障	害	に	つ	い	て	あ	る	程	度	理	解	し	て	い	る	た	め	、	手	助
け	を	す	る	こ	と	が	で	き	る	と	考	え	ら	れ	る	。	以	上	の	こ	と	を	踏	ま
え	る	と	、	困	っ	て	い	る	障	害	の	あ	る	人	に	対	し	て	手	助	け	を	し	な
か	っ	た	人	が	手	助	け	を	す	る	よ	う	に	な	る	た	め	に	は	、	障	害	の	あ
る	人	と	接	す	る	機	会	を	増	や	し	て	障	害	に	関	す	る	知	識	や	理	解	を
深	め	る	こ	と	が	大	事	だ	ろ	う	。	具	体	的	に	は	、	世	の	中	に	は	ど	の
よ	う	な	障	害	を	抱	え	て	い	る	人	が	ど	の	程	度	い	る	の	か	、	障	害	の
種	類	や	特	性	に	応	じ	て	ど	の	よ	う	な	困	り	ご	と	が	あ	っ	て	、	そ	れ
ぞ	れ	に	ど	の	よ	う	に	サ	ポ	ー	ト	で	き	る	の	か	に	つ	い	て	学	校	や	地
域	で	学	ぶ	機	会	を	作	る	方	法	が	考	え	ら	れ	る	。							

200

問題2 (産業技術学部 産業情報学科(総合問題))

(1) 答えを導き出すための考え方と計算過程も書きなさい。図や表を用いてもよい。

(a)

両方の視力が 0.8 に満たないので、右目が～0.5、0.6、0.7、左目が～0.5、0.6、0.7となる 3×3 の部分の人数の合計を求めればよい。

合計を計算すると 33 人となる。

右目 左目	～0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2	1.5	2.0	合計
～0.5	5	3								8
0.6	4	4	3	5	2	1				19
0.7	2	4	8	9	7	3	1			34
0.8	2	3	7	8	7	6	2	1		36
0.9		1	4	7	7	5	3	2		29
1.0			2	7	4	7	5	3	1	29
1.2			1	3	4	5	4	3	2	22
1.5					1	2	3	2	1	9
2.0							1		1	2
合計	13	15	25	39	32	29	19	11	5	188

※ 表の網掛けの部分の合計が計算の対象になる（表を用いた説明はなくてもよい）

答え イ

(b)

右目、または左目の少なくとも一方の視力が 1.2 以上の人数の合計は 51 人なので、これを全体の 188 人で割る。

$$51/188=0.271\cdots$$

となるので、約 27%となる。

右目 左目	～0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2	1.5	2.0	合計
～0.5	5	3								8
0.6	4	4	3	5	2	1				19
0.7	2	4	8	9	7	3	1			34
0.8	2	3	7	8	7	6	2	1		36
0.9		1	4	7	7	5	3	2	1	29
1.0			2	7	4	7	5	3	1	29
1.2			1	3	4	5	4	3	2	22
1.5					1	2	3	2	1	9
2.0							1		1	2
合計	13	15	25	39	32	29	19	11	5	188

※表の網掛けの部分の合計が計算の対象になる（表を用いた説明はなくてもよい）

答え ウ

(c)

左右の視力を足して 2 で割った値が 1.2 以上になる部分の数値の合計を計算すれば良い。

例えば、左目が 1.5 ならば、右目が 0.9 以上となる部分が対象である。

対象となる数値を合計すると 26 人となる。

右目 左目	～0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2	1.5	2.0	合計
～0.5	5	3								8
0.6	4	4	3	5	2	1				19
0.7	2	4	8	9	7	3	1			34
0.8	2	3	7	8	7	6	2	1		36
0.9		1	4	7	7	5	3	2	1	29
1.0			2	7	4	7	5	3	1	29
1.2			1	3	4	5	4	3	2	22
1.5					1	2	3	2	1	9
2.0							1		1	2
合計	13	15	25	39	32	29	19	11	5	188

※表の網掛けの部分の合計が計算の対象になる（表を用いた説明はなくてもよい）

答え イ

(2)

(a)

(a)	(β)
400	4N

(b) 答えを導き出すための考え方と計算過程も書きなさい。図や表を用いてもよい。

(a)の解答例およびⅠ～Ⅲの情報を踏まえて、表にまとめると、下表のようになる。

Nを整数として、(a)の解答例より、A社の店舗数は4N[店舗]、A社全体の在庫数は400N[冊]となる。Ⅰの情報により、B社全体の在庫数は400N[冊]となり、B社の店舗数は5N[店舗]となる。Ⅱの情報により、C社の店舗数は2N[店舗]となり、全体の在庫数は300N[冊]となる。Ⅲの情報により、D社の店舗数は12N[店舗]となり、全体の在庫数は720N[冊]となる。

会社	1店舗あたりの書籍の平均在庫数	店舗数	全体の在庫数
A	100冊/店舗	4N 店舗	400N 冊
B	80冊/店舗	5N 店舗	400N 冊
C	150冊/店舗	2N 店舗	300N 冊
D	60冊/店舗	12N 店舗	720N 冊

上表を参照し、①～③それぞれの内容の正誤を判断する。

① A社全体の在庫数は、C社全体の在庫数より少ない。

→C社全体の在庫数は、 $150[\text{冊/店舗}] \times 2N[\text{店舗}] = 300N[\text{冊}]$ となる。

A社の方が全体の在庫数が多いため、①の内容は「誤（誤り）」である。

② B社全体の在庫数とC社全体の在庫数を合わせた在庫数は、D社全体の在庫数より少ない。

→B社全体の在庫数とC社全体の在庫数を合わせた在庫数は、

$400N[\text{冊}] + 300N[\text{冊}] = 700N[\text{冊}]$ となる。

D社全体の在庫数より少ないため、②の内容は「正（正しい）」である。

③ B社とC社を合わせた1店舗あたりの書籍の平均在庫数は、A社と同じである。

→B社とC社を合わせた1店舗あたりの書籍の平均在庫数は、

$(400N[\text{冊}] + 300N[\text{冊}]) \div (5N[\text{店舗}] + 2N[\text{店舗}]) = 100[\text{冊/店舗}]$ となり、

A社の1店舗あたりの書籍の平均在庫数と同じになるため、③の内容は「正（正しい）」である。

よって、解答は「オ」（① 誤 ② 正 ③ 正）である。

答え オ

(3) 答えを導き出すための考え方と計算過程も書きなさい。図や表を用いてもよい。

図 2-3 に示すように、真上から見た図で考えられる最小数を出す。

立体を、図 2-1 の正面および、図 2-2 の真上から見た図の縦を列、横を行とし、照らし合わせると、図 2-1 の左側の列は、図 2-1 の正面から見た時に立方体が 3 個あることは確かであるが、図 2-2 の真上から見た時は 1 個しかないの
で、立方体が 3 個あることがわかる。

中央の列は、図 2-1 の正面から見た時に最大で 4 個ある。図 2-2 の真上から見た時に 1 ～ 3 行に立体が何個あるかはわからないが、どこかの行に最低でも 1 個はある。この列のどの行に 4 個あるかはわからず、どこにあっても良いが、立方体の最小数はわかる。

右の列は、図 2-1 の正面から見た時に最大で 2 個ある。図 2-2 の真上から見た時も 2 個であることから最低でも 1 個はある。この列のどの行に 2 個あるかはわからず、どこにあっても良いが、立方体の最小数はわかる。

最小数 : $3+4+1+1+1+2=12$

よって最小数は 12 個である。

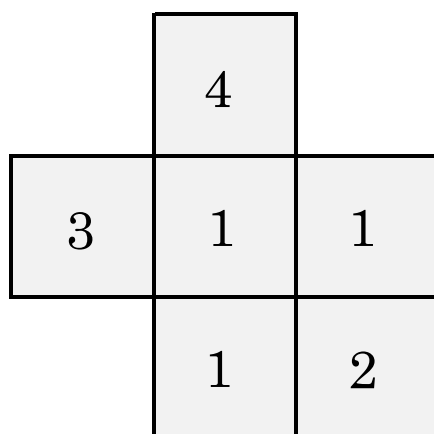


図 2-3 : 最小数

答え オ

問題3 (産業技術学部 総合デザイン学科(総合問題))

解答例1

SDGsな未来のために

気候変動による地球温暖化の問題を知ろう

～気候変動を止めるために私たちができる取り組みについて～



①ゴミを減らす	②電気自動車への移行	③家庭での節電
●リデュース (Reduce) …ゴミや消費資源を減らす ●リユース (Reuse) …捨てずに繰り返し使う ●リペア (Repair) …修理して使う ●リサイクル (Recycle) …資源として再利用する 買うものを減らす マイバッグの使用 修理して長く使う 資源ごみの分別	二酸化炭素の排出 ●ガソリン車 →たくさん ●電気自動車 →ない 日本政府 〈2050年カーボン ニュートラル宣言〉 2050年までに完全にガソリン車の 生産と利用の廃止を目指す。 EV ステーション	発電電力について 火力発電が 70%以上！ 火力発電は 二酸化炭素 を多く排出 その他 火力発電 エネルギー消費量を減らそう！ こまめな電源 のオンオフ エアコン設定 温度の見直し 電球のLED化 省エネ化

解答例2

SDGsな未来のために

気候変動による地球温暖化の問題を知ろう

～気候変動を止めるために私たちができる取り組みについて～

①ゴミを減らす	②電気自動車への移行	③家庭での節電
●リデュース (Reduce) …ゴミや消費資源を減らす ●リユース (Reuse) …捨てずに繰り返し使う ●リペア (Repair) …修理して使う ●リサイクル (Recycle) …資源として再利用する 例えば ・ 買うものを減らす ・ マイバッグの使用 ・ 修理して長い期間使う ・ 資源ごみの分別を行う など	二酸化炭素の排出 ●ガソリン車 →たくさん ●電気自動車 →ない 日本政府 〈2050年カーボン ニュートラル宣言〉 2050年までに 完全にガソリン車の生産と利用 の廃止を目指す。	発電電力について 火力発電が 70%以上！ その他 火力発電 ●火力発電は二酸化炭素 を多く排出する エネルギー消費量を減らそう！ 例えば… ・ こまめな電源のオンオフ ・ エアコンの設定温度の見直し ・ 電球のLED化、省エネ化 など